

伊賀市社協だより

令和6年11月1日発行

No.224

11月号



伊賀市災害ボランティアセンター
能登半島豪雨水害復旧支援活動
(9/29 VoRe パック第7便・輪島市三井町にて)



伝える 広がる ふくしのこころ



地域福祉の推進には、私たち一人一人の福祉意識を高めていくことが必要です。また、共に生きることのできる社会「共生社会」の実現には、教育や学習が不可欠です。

社協では、一人ひとりが尊重され、ともに助け合い、安心して暮らせる共生社会を実現するためには、子どもから大人までのあらゆる世代が、ふだんのくらしの中で気づきや学び合うことが大切だと考え、地域を基盤とした福祉教育を推進しています。

今回は、福祉を学んだ生徒たちが、自身の学びを活かし、福祉の心を次世代に伝え繋げていく取り組みをご紹介します。

学校・社協・地域が連携のもと福祉教育を推進する道標として、「福祉教育推進指針」(H28)を策定。



学校や地域で、誰もがわかりやすく学びあえるプログラムの冊子も作成。



社協×学校の福祉実践
約30年のあゆみ

社協は、学校や地域に出向き、福祉を学ぶ機会や出会いの場づくりをサポートしています。特に三重県立伊賀白鳳高等学校とは、前身である上野商業高等学校の時代から約30年間にわたって協働し、地域の高齢者を招いて創作活動を行う、市内初のふれあい・いきいきサロンの運営に取り組んできました。また、過去には、障がい児を含む誰もが集える居場所づくりや、民生委員と協力した高齢者宅への定期訪問、サロンへの出張なども行ってきました。

平成9年からは、地域住民と共に福祉を学ぶ講座を開講していましたが、令和2年度からはコロナ禍の影響で、ヒューマンサービス科生活福祉コース1年生を対象とした講座を毎年開講。講座では、災害対策やユニバーサルデザイン、認知症理解などをテーマに、学校と協力して内容を毎年見直しています。



ふくしの学びや魅力を
伝えるチカラを生徒に



自身も卒業生で、ボランティア部部長をしていた猪岡先生。いつも福祉教育の相談に応じていただける心強い存在。

ヒューマンサービス科の猪岡歩未先生は、「福祉」と一括りにしても、その範囲は非常に幅広いです。多くの人は、その道に興味を持って進まなければ、学ぶ機会がほとんどないのが現状です。しかし、福祉に携わる者として、私はもっと広く福祉の魅力を伝えたいと常に思っています。どのように次世代にその魅力を伝えていくべきか、日々模索しています。ヒューマンサービス科生活福祉コースには、保育士を目指す生徒が多くいます。私は、**生徒たちに将来を見据えて「伝える力」を身につけてほしい**と考えています。その際、**彼女らの「子どもが好き」という強みを活かしながら、これまで学んできたことを小学生に伝える機会を提供できないか**と考えました。そこで、3年生の授業の中で、小学生を対象にした授業の準備が始まりました。」と話します。社協は、高校と小学校との繋ぎなどのコーディネートを担当しました。

高校生が挑戦！ 初めての授業づくり



そこで、学校では令和6年4月から3か月間、毎週3時間の限られた授業時間の中で、小学生向けの授業案作成に取り組みました。

まず、教員が「福祉用具」「赤い羽根共同募金」「防災」「防犯」「認知症理解」の5つのテーマを提示し、生徒たちはそれぞれのテーマに基づいてグループに分かれました。その後、生徒は、小学生がどこまで漢字を理解しているか、また資料はプリントと映像のどちらがより効果的かを考えました。小学生に分かりやすく伝えるための工夫を凝らし、企画・構成を行い、試行錯誤を繰り返して改善し、ようやく準備が整いました。授業は、上野東小学校、久米小学校、上野西小学校等で実施できるようになりました。



小学生への授業実践

生徒の声

小学生に伝える、伝える楽しさと難しさを経験！

「防災教室」では、授業で教わった災害対策の新聞スリッパ作りなどを企画しましたが、小学校との打ち合わせで既に体験済みということがわかり、企画を変更したりしました。

「赤い羽根共同募金教室」では、楽しめるものにしようと紙芝居形式にしました。話は短く簡潔にし、紙芝居のサイズを大きくして見やすく工夫した結果、小学生たちは集中して話を聞いてくれました。伝わるように考えることが、とても難しかったです。

小学校からは交流の時間のリクエストもあり、「猛獣狩りに行こうよ！」で盛り上がりました。

グループごとに授業作りを進めたので、普段交流が少ないクラスメイトとも協力して仲も深まりました。



ヒューマンサービス科3年
辻田真子さん 星野優菜さん 杉森芽さん



作成した紙芝居

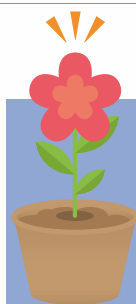


がら、地域を基盤とした福祉教育を推進しています。長年にわたり、学校や地域と協働で種まきをしてきた取り組みが芽吹き、花を咲かせ、生徒の皆さんが次の世代につなぐ動きに発展して嬉しいです」と話します。

「相手によってどのような言動を取るのかをしっかりと考えたい」との感想もありました。福祉用具教室の授業を受けた小学生からは、「わかりやすく教えてくれてありがとう」「車いすをおすすめ人とおさる人の気持ちがわかった」などの感想が寄せられていました。



授業を受けた小学生からのメッセージ



相手を想像することが
ふくしのこころの第一歩

生活相談会と、
お米の無料提供

対象▶

伊賀市にお住まいの、物価の値上げなどで、
生活に影響を受けている**子育て世帯**お米
パントリー

日時

2024年12月8日(日)

時間

9:30~11:30

場所

伊賀市総合福祉会館
駐車場(平野山之下380-5)

要予約

先着200世帯

- 11月20日(水)までにお申し込みください。
- 当日、お困りごとの相談もできます。
- 当日来場できない場合は、事前にご相談ください。

申込・お問い合わせ先

伊賀市社会福祉協議会
くらしサポートセンターおあいこ
☎ 0595(22)0084

申込専用
QRコード▼

●主催／(福)伊賀市社会福祉協議会

●協力／伊賀歯科医師会・伊賀市社会福祉法人連絡会・伊賀市民生委員児童委員連合会

★この事業は、お米農家さんから伊賀市社協への寄付米および共同募金配分金を活用して実施します。

お米5kgを
おわたします伊賀の米農家さん
からの贈り物で、
生活を応援!こども歯科相談
もあります

9人に1人が貧困の国、日本。



「子どもの貧困問題を考える」

子どもの貧困問題は、自己責任論では解決できないと言われています。子どもは生まれる家庭を選ぶことができないためです。そのため、貧困問題の根本的な解決には、社会全体での取り組みが必要です。

社協では、未来を担う子どもたちのために、貧困問題の解決に向けて取り組んでいます。

Q 子どもの貧困問題が生じる要因は?

子どもの貧困問題が生じる要因には、さまざまなものがあることが分かりますが、大きく分けると次の5つが挙げられます。①親の収入の低さ②教育格差③ひとり親家庭の増加④子ども支援予算の不足⑤情報格差です。

例えば、日本における非正規雇用の割合は約4割に達しており、大卒の年収は中卒の約1.5倍とされます。また、離婚率が約3組に1組という状況や、日本の子ども関連予算がGDP比で1.79%であるのに対し、OECD平均は2.34%と大きく下回っている現実があります。さらに、日本では「申請主義」が採用されているため、必要な情報を得て制度をうまく活用できない人が多く存在します。

「夏休みに給食がなくて痩せてしまう子ども」や「小さくなった黒ずんだ上靴を履き続けている子ども」など、支援を必要とする子どもたちがいます。

私たちは、困難な状況にある子どもたちを一人でも減らすため、これらの要因一つ一つに働き合い、解決に向けた取り組みを進めていきます。

伊賀市の未来を支えるために、みなさまからの支援が必要です。

「子どもの貧困対策」プロジェクト設立募金

伊賀市社会福祉協議会 ☎ 0595-33-0064

webページから、
クレジットカード
での寄付もできます

※伊賀市社協への寄付は、税制控除の対象となります。



伊賀市社会福祉協議会

令和6年 能登半島豪雨災害 緊急支援募金

能登半島豪雨災害の被害を受けた
地域に住む被災者の方々が、
1日でも早く通常生活に
復帰できるようにするための
緊急支援活動を行います。
ご支援ご協力をお願いします。

伊賀市社協では、令和6年9月21日の豪雨災害を受け、能登半島地震への緊急支援活動を継続することを決定し、「令和6年能登半島豪雨災害緊急支援募金」の受付を開始しました。

緊急支援活動の主な内容と支援金の使い道

- 被災地の社会福祉協議会を中心とした、現地で被災者支援を行う組織・団体への資金支援
- 現地へのスタッフ派遣
- 資機材提供（スコップ・一輪車・土嚢袋・バケツ・デッキブラシ・箒・ブルーシート等）
- 被災地への災害ボランティアバスの運行
- 被災地支援業務に関わる経費等

※能登半島豪雨災害支援終了後は、伊賀市を含め全国の被災地支援活動及び防災活動等に活用させていただきます。

Q.「支援金」と「義援金」の違い

▶「支援金」は、被災地で活動する福祉団体、NPO、NGOなどを支援する資金です。被災者を支援する活動、支援物資や食糧の調達など、幅広い支援が行えます。

▶「義援金」は、被災者に直接届くお見舞金です。すべて被災者に届けられる性質上、被災者を支援する活動、支援物資、食糧支援などには使われません。また、被災者の手元に届くまで時間がかかる性質もあります。

受付窓口

(福)伊賀市社会福祉協議会 本部・各地域センター
伊賀市平野山之下 380 番地 5 伊賀市総合福祉会館 1 階
☎0595-33-0064 FAX0595-21-8123

web申込
できます



※伊賀市社協に対するご寄付は、税制上の優遇措置（所得控除または税額控除）を受けることができます（確定申告が必要）

第13回いがまちボランティアまつり
「地域にひろがり、地域が笑顔に」

地域のボランティアを知るチャンス！お子様から大人までみんなが楽しめるながら、ボランティアや福祉を学べるブースを準備しています。たくさんのご来場をお待ちしていますので、ぜひお越しください！

【日時】 11月30日（土）

9時30分～12時30分

【会場】 西柘植地区市民センター

【主催】 いがまちボランティア連絡協議会

【内容】

◆ ボランティア活動紹介

◆ 体験ブース（折り紙・手話・車椅子

介助等）

◆ マジックマジヨンナによるマジックショー

◆ バルーンアートの実演「やつちゃん

ふくちゃん」

◆ 赤い羽根共同募金ブース

◆ スタンプラリー など

【問い合わせ先】 いがまち地域センター

☎45-1012

歳末たすけあい募金配分事業
世代間交流事業 申請受付中

歳末たすけあい募金を活用し、年末年始に身近な地域での複数世代（2世代以上）の交流事業に助成します。

【助成対象団体】 ふれあい・いきいきサロン、住民自治協議会、自治会、民生委員児童委員協議会、地域サークル等。

【助成の対象事業等】 概ね令和6年12月～令和7年1月に実施する、事業運営に必要な活動経費の一部助成等

【助成対象】 複数の世代がいることが原則とし、単一世代のみは対象外。

【助成額】 参加者の合計人数に応じ、5千円～3万5千円を助成

【助成内容】 講師報償費、会場使用料及び機材使用料、食材費及び光熱水費、行事保険料、その他

【申請方法】 申請用紙を社協各地域センター窓口または、伊賀市社協ホームページよりダウンロードして、11月15日（金）までに提出。

【申込・問い合わせ先】
伊賀市社協各地域センター

歳末たすけあい募金配分事業 福祉映画会



命ある時間は、なぜ同じではないのだろうか？
感動のヒューマン医療巨編、誕生。



現役医師による傑作医療小説、豪華キャストで映画化！まほろば診療所—そこは、命を少しだけ輝かせる場所…。金沢の小さな診療所を舞台に、“いのち”に優しく寄り添う医師と、避けることのできない死を迎える患者とその家族が、それぞれの立場から病と向き合い、葛藤し、成長してゆく。原作は現役医師・南杏子の同名小説で、医師だからこそ描写できる医療現場の臨場感、安楽死といったテーマに深く切り込む。

■監督・脚本／和島香太郎 ■出演：吉永小百合、松坂桃李、広瀬すず、南野陽子、柳葉敏郎、小池栄子 ほか

※鑑賞券

一般予約券 1,000 円以上の募金で1枚（当日1,300円以上）
小中高生予約券 800 円以上の募金で1枚（当日1,000円以上）

- 鑑賞券を希望の方は、申込受付フォームまたは、伊賀市社協か前田教育会までご連絡ください。
- 鑑賞券は、当日会場で引き換えます。
- （受付開始 11/1（金）10:00～ 予約券は事前予約のみ）
- 乗り合わせにご協力ください



申込フォーム

©2021「いのちの停車場」製作委員会

■と き／ 2025年 1月12日 日
13:30～（30分前から受付） 上映時間119分
字幕あり

■ところ／ 青山ホール

（伊賀市阿保 1411-1 ☎52-1109）

○主催／公益財団法人 前田教育会 ☎0595-24-5511

○共催／（福）伊賀市社会福祉協議会 ☎0595-33-0064

○後援／三重県共同募金会伊賀市共同募金委員会



伊賀市障がい者福祉連盟主催「令和6年度第14回伊賀市障がい者福祉大会」において、梅あいらさんのトークライブを開催します。どなたでもご参加いただけますので、ぜひご参加ください。

【日時】11月30日（土）
午後2時15分～午後3時15分頃

【講師】梅あいらさん
プロフィール 伊賀市出身
CIVIS Music Entertainment 所属歌手
オルタナティブ・ロック、ポップ演歌等、様々なジャンルに影響

透明感ある歌声とカホン＆ボーカル、世界観あるステージが好評
Mini Album 発売『あいらと灯』
リットリンク

【場所】ゆめぼりすセンター
2階 大会議室

【参加費】無料

【連絡先】伊賀市障害者福祉連盟事務局
☎ 33-00064

伊賀市障がい者福祉大会
梅あいらさんトークライブ

このサービスは、伊賀市社会福祉法人連絡会が運用する、「LINE」を利用して日常の悩みや質問をAIに個別に相談できるシステムです。ChatGPT API（最新のGPT-4o mini）を活用し、ユーザーからの質問に24時間365日対応します。相談内容に応じて、専門機関の紹介も可能です。利用者のプライバシーを最重視し、完全匿名でご利用いただけます。

【主な機能】

- AIが日常の悩みをオンラインで解決
- 24時間365日、いつでも相談可能
- 相談内容に応じ、専門機関の紹介も可

【利用方法】下記のQRコードで、「LINE」の友だち追加してください。登録後、チャットウィンドウに質問や相談内容を入力し、送信するだけでAIが応答します。

伊賀市内在住または勤務の方を対象とし、今後、相談窓口を拡充予定です。

【注意事項】

- ※氏名など、個人情報への入力不要
- ※回答に時間がかかる場合や予告なくサービスが停止する場合があります
- ※全ての会話データは厳格に管理しますが、改善のため匿名で分析することがあります。
- ※サービスは無料で利用でき、災害時にも利用可能です。

【問合せ先】総務課（伊賀市社会福祉法人連絡会事務局） ☎ 21-5866

「LINE」をつうじた
AIお悩み相談



毎月の寄付者募集

1日33円からできるサポート



伊賀市社会福祉協議会

私たちは、地域社会を良くするために、制度の狭間となる課題解決に挑戦し続ける団体です。ぜひ、ご寄付という形で私たちの活動を支えてください。

【申込・お問い合わせ先】伊賀市社会福祉協議会
☎ 21-5866・FAX 26-0002



生活の危機、人生の危機にある人や子どもたちを一人でも多く救うために、あなたも「毎月の寄付者」になりませんか。

広告募集中！

▶15～49歳までの「仕事に就きたい人とその家族」を応援！

「働きたい」という気持ちがあればだいじょうぶ!!

専門相談員が今の思いを聴かせていただきます。

※就職相談・各種講座※
利用無料・要予約

11月 無料パソコン講座
時間 10:00～15:15

18日(月) 20日(水) 27日(水)
25日(月)

出張相談(ハローワーク伊賀)
11月19日 火
13:00～16:00
要予約

サポステ ☎ 0595-22-0039
伊賀市上野丸之内500 ハイピア伊賀3階
いが若者サポートステーション 開所日/月～金 9:00～17:00 (土・日・祝・年末年始休)

ご不要車買取ります。

年式の古い車
乗らなくなった車

愛車の買取なら地元企業の
亀井商事

出張買取 査定費用 0円 引き取り料 0円

買取受付ダイヤル
Joy-Auto Service
株式会社 亀井商事
ジョイオートサービス 青山店
伊賀市青山羽根381-27
0595-62-3131

数字で見る伊賀市の福祉

令和6年8月末現在(前月比)

伊賀市の人口	▶ 85,032人 (-76人)		
伊賀市の世帯数	▶ 40,624世帯(+44世帯)		
65歳以上高齢者数	▶ 28,984人 (-32人)	高齢化率	▶ 34.1%(±0%)
75歳以上高齢者数	▶ 16,684人 (+58人)	後期高齢化率	▶ 19.6%(+0.1%)
介護保険認定者数	▶ 6,233人 (+21人)		

あなたのまちの
ふれあい・いきいきサロン

No.210



八幡町わんこいんカフェ

メンバー数 / 19人

開催場所 / 八幡町教育集会所ほか

開催頻度 / 月1回(土・日)

八幡町自治協では、今年度、住民自治協議会が「わんこいんカフェ」を立ち上げました。「同じ町内に住んでいても、大通りを挟んで会いに行くのも大変」そんな現状に気づき、「気軽に寄り集える場所を」と考えたそうです。

7月から始まったこの「わんこいんカフェ」では、この日、コーヒーを飲んだり、手芸作品を鑑賞したり、思い思いの味にしたかき氷に涼を求めながら、おしゃべりに花が咲いていました。近隣の銭湯がなくなったこともあり、みんなでさるびの温泉や月ヶ瀬温泉などに出向くこともあるそうです。

サロンスタッフは、「何気ないおしゃべりを、立ち話より集ってゆっくり楽しんでほしい。温泉に行くのも、ちょっとした旅行気分を感じてもらえているようだ。緩やかに継続していきたい。」と話してくれました。

我ら！ふくし
レンジャー

No.219

やまぐち ま ゆ こ
山口 真由子さん

●活動を始めたきっかけ

コロナ禍で公共施設の利用が制限され、商店街の通路で時間つぶしをしたり、勉強をしたりする子どもをよく見かけるようになりました。また、給食だけを食べに学校に来ている子がいるという話も聞き、時代の変化に驚きました。空きテナントの無償貸与のご厚意もあり、若者たちが学び集える場を作り商店街の活性化にもつなげたいという思いから、まずは自主学習室を始め、子ども食堂の開設を決めました。

●活動内容

高校生の自習室、ブックカフェ兼子ども食堂を週4回開設し、老若男女誰でも通えるスペースとなっています。長期休みには、たくさんの子どもの居場所となっており、取り組みにご賛同をいただいている飲食店さんからの協力の上、無償でお弁当の配布も行っています。また、学生さんはテスト期間などに自習室を有意義に活用しています。

●今後の抱負

だーこキッチン自習室を巣立った卒業生による、子どもへのオンライン学習システム(だーこ先生)を軌道に乗せたいです。卒業生が伊賀との関係が途切れないよう、ご縁を大切にしていきたいです。

9月21日に発生した豪雨災害により、能登半島では再び甚大な被害が発生しています。伊賀市災害ボランティアセンターは被災地にいち早く駆けつけて、現地のNPO団体の案内のもと被災地の復旧支援や、豪雨災害募金の街頭募金活動に参加したりするなど活動を継続しています。

編集後記

編集・発行

伊賀市社会福祉協議会

本部	〒518-0829 平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館 1階 ☎0595(21)5866 / FAX0595(26)0002
上野	〒518-0829 平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館 1階 ☎0595(21)1112 / FAX0595(21)8123
地域センター	いがまち ☎0595(45)1012 / FAX0595(45)1050
島ヶ原	〒519-1711 島ヶ原4743番地 島ヶ原福祉センター「清流」 ☎0595(59)3132 / FAX0595(59)3145
阿山	〒518-1313 馬場1128番地の1 阿山保健福祉センター ☎0595(43)1854 / FAX0595(43)1577
大山田	〒518-1422 平田656番地の1 大山田福祉センター ☎0595(47)0780 / FAX0595(46)1165
青山	〒518-0226 阿保1988の1番地 青山福祉センター ☎0595(52)2999 / FAX0595(52)3555